

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年12月26日

予報期間：12月28日～1月27日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

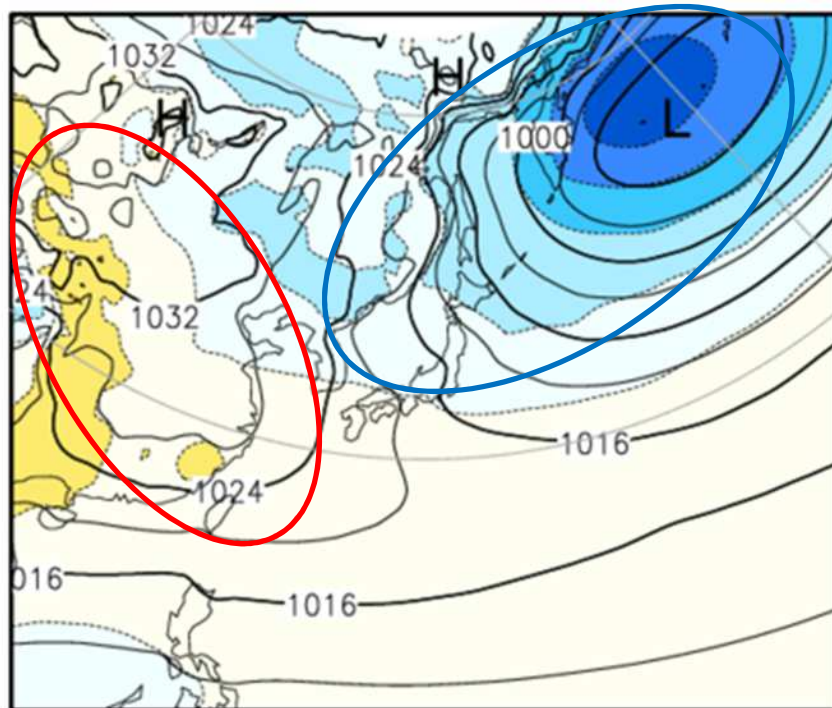
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	50:30:20	20:40:40	40:40:20	20:30:50
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
東日本	日本海側	50:40:10	20:30:50	40:40:20	20:30:50
	太平洋側		50:30:20	20:30:50	
西日本	日本海側	50:40:10	40:40:20	30:30:40	20:40:40
	太平洋側		50:30:20	20:30:50	
沖縄・奄美		50:40:10	40:40:20	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	60:30:10	30:50:20	40:30:30
東日本	50:40:10	30:50:20	40:40:20
西日本	50:40:10	30:50:20	40:40:20
沖縄・奄美	50:40:10	40:50:10	40:40:20

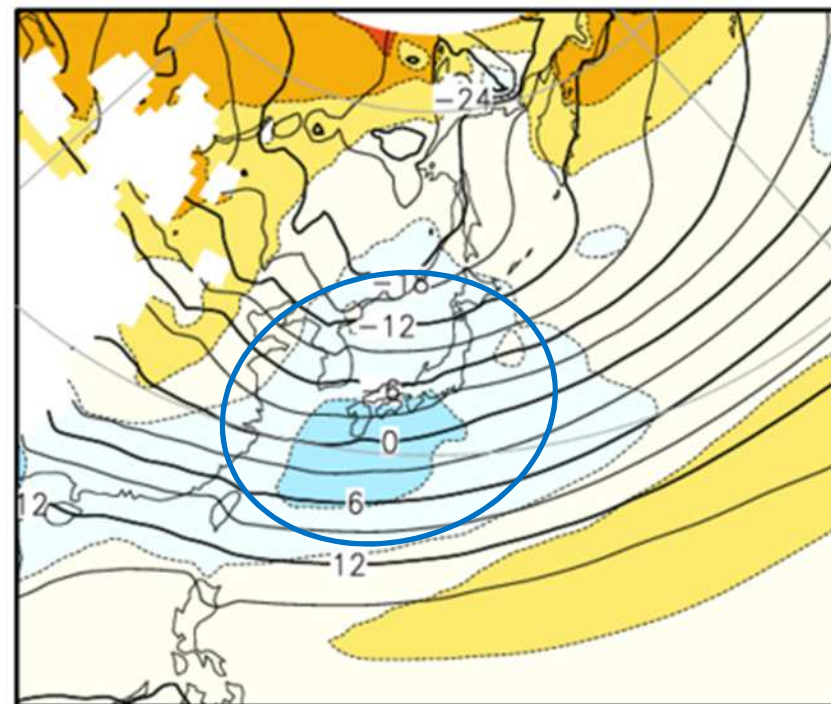
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、全国的に寒気の影響を受けやすいため低いでしょう。
- ・冬型の気圧配置が強まりやすいため、向こう1か月の降水量は東日本日本海側では多く、北日本日本海側では平年並か多いでしょう。日照時間は、北・東日本日本海側では平年並か少ないでしょう。降雪量は、北・東日本日本海側では多く、西日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は東・西日本太平洋側では少なく、西日本日本海側と沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。日照時間は、東・西日本太平洋側では多いでしょう。

海面気圧(1か月)



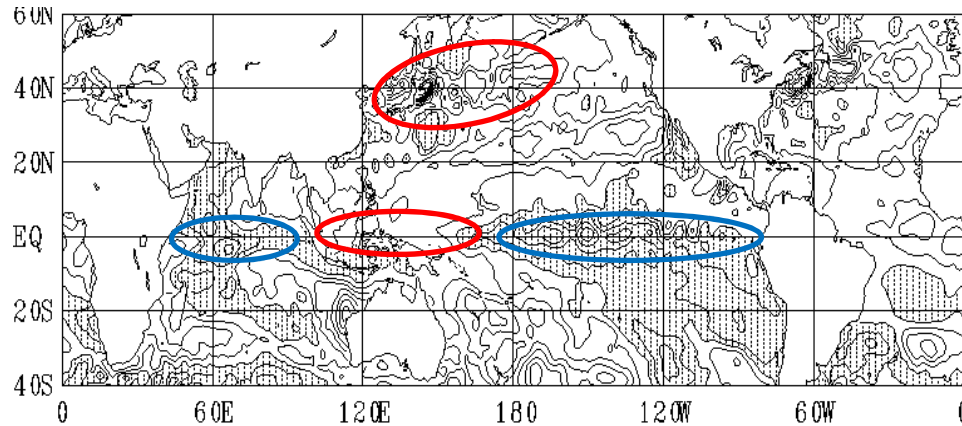
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、カムチャツカの東を中心に平年より低い一方、大陸から東シナ海付近にかけて平年より高いでしょう。このため、日本付近では冬型の気圧配置が強まりやすいでしょう。

上空約1500mの気温(右図)は、西日本から沖縄・奄美付近を中心に平年より低く、全国的に寒気の影響を受けやすい見込みです。

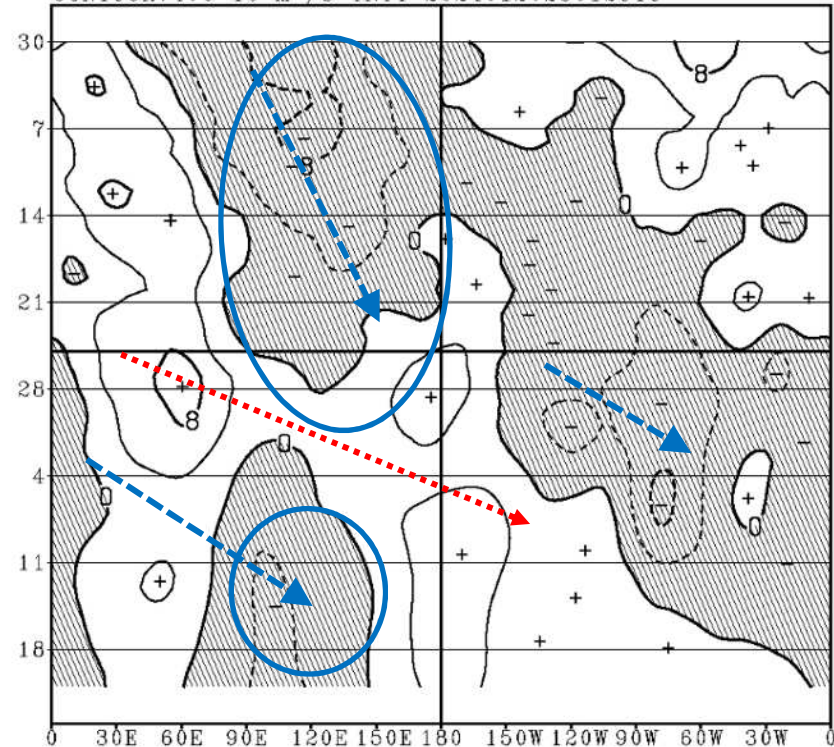
SST偏差



熱帯域では、インド洋西部を中心に負偏差。インド洋東部から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

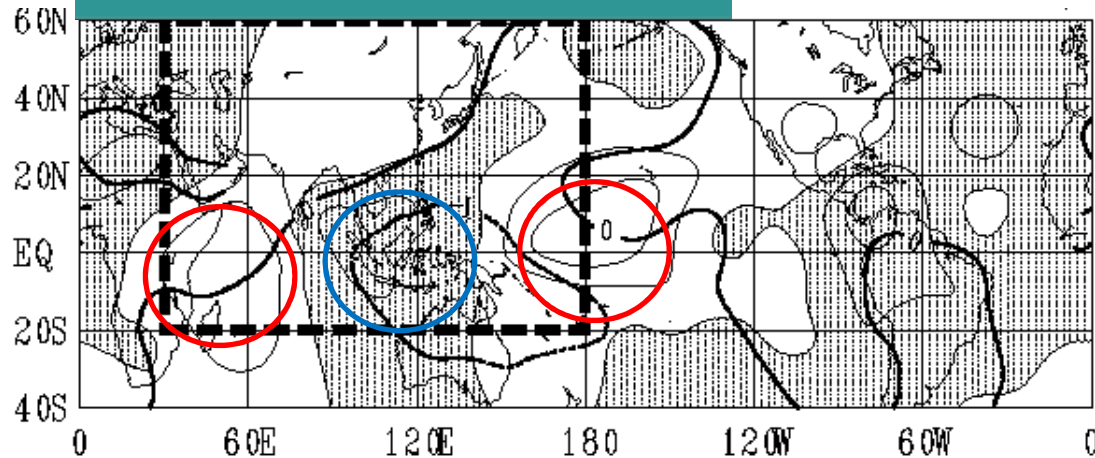
200hPa速度ポテンシャル偏差

200 hPa速度ポテンシャル偏差 (5 N-5 S) アンサンブル平均
CONTOUR: $4.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ INIT=2024.12.25.12UTC



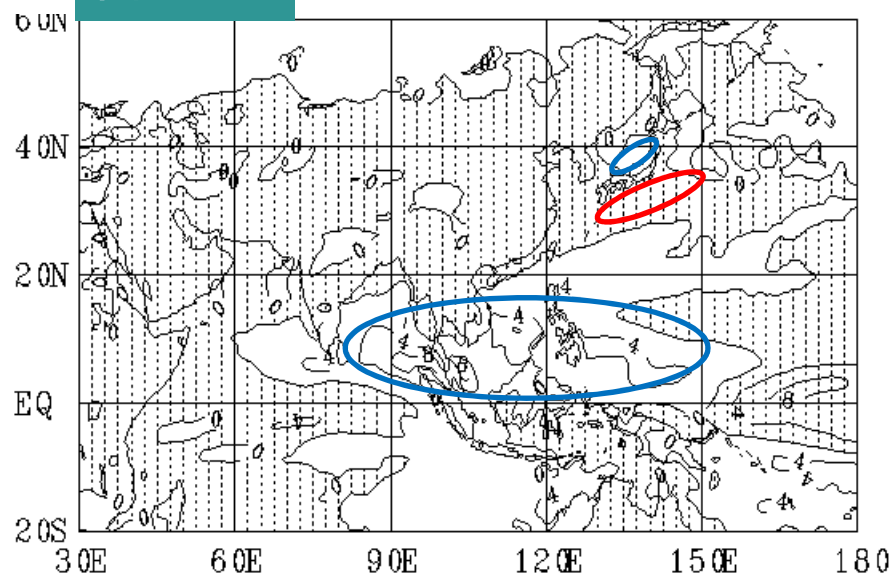
実況では、インドネシア付近で対流活発な一方、別の活発域が太平洋を速く東進している。予測期間中も東進が続き、2週目にかけて対流活動の中心は南米付近に移るが、インド洋西部で不活発となる。期間後半には活発域がインドネシア付近に進む予想。

200hPa速度ポテンシャル



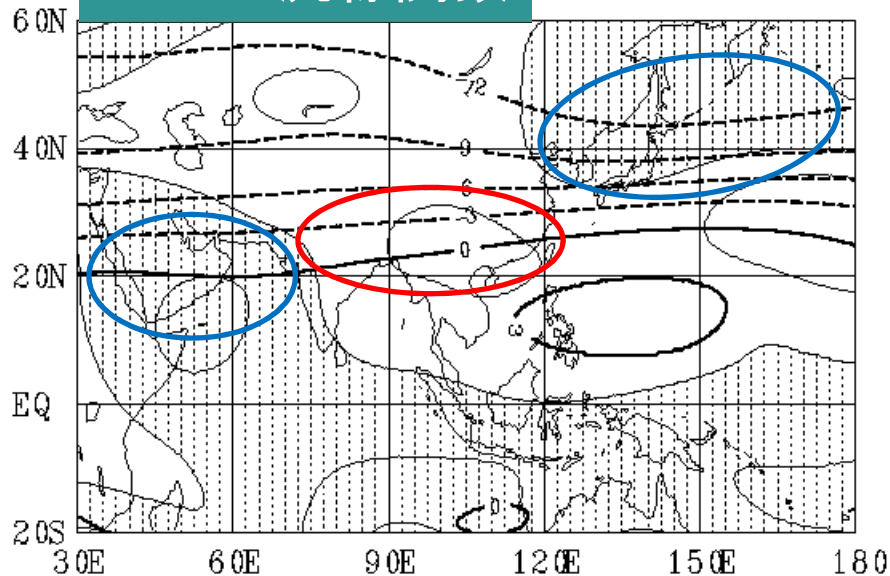
熱帯の対流活動に対応して、インドネシア付近で上層発散偏差の一方、インド洋西部と太平洋中部で上層収束偏差。

降水量



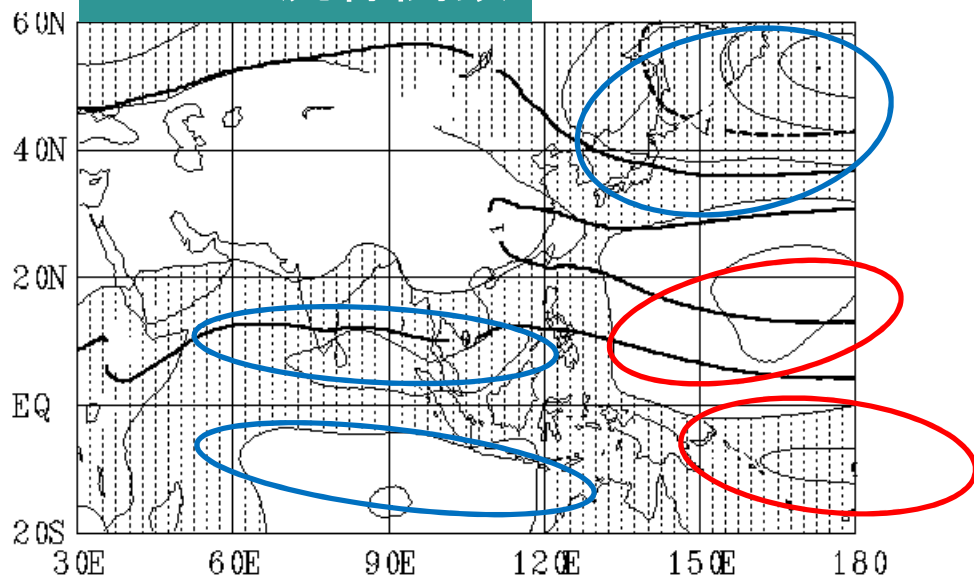
インド洋東部からフィリピンの東にかけて多雨偏差。
日本付近では、日本海側で多雨偏差だが、太平洋側では少雨偏差。

200hPa流線関数



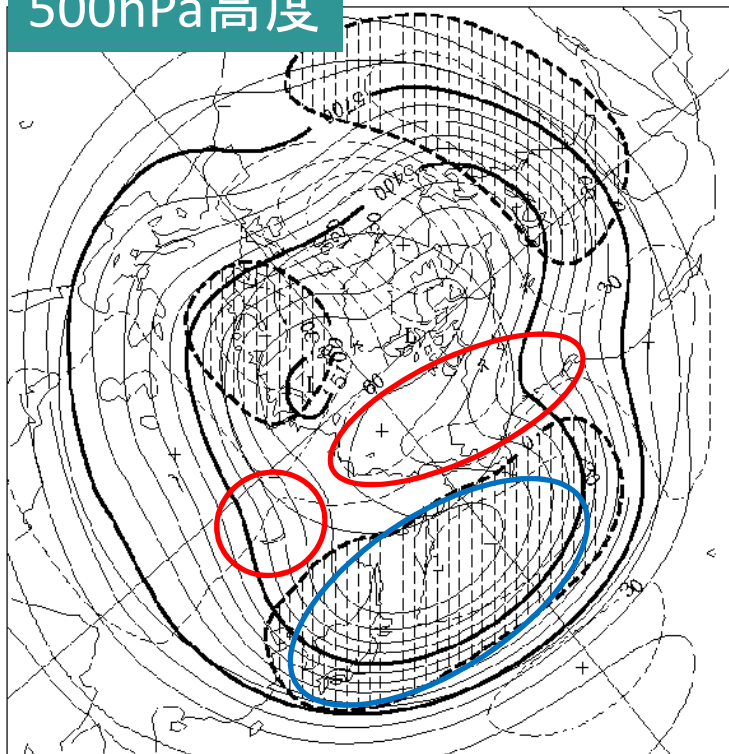
アラビア海付近に低気圧性循環偏差、中国南部付近に高気圧性循環偏差。一方、日本付近は低気圧性循環偏差。この波列状の偏差パターン形成には、熱帯の対流活動の影響がある。

850hPa流線関数



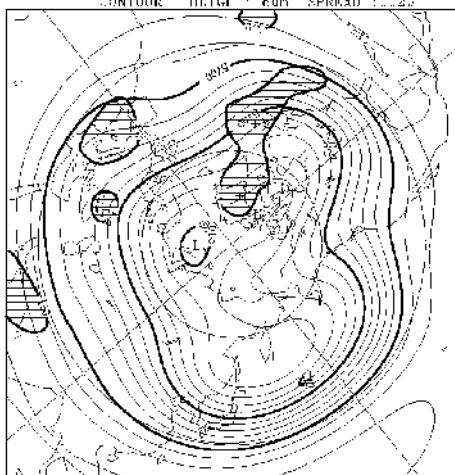
熱帯の対流活発の影響で、インド洋では南北対の低気圧性循環偏差。一方、西太平洋熱帯域で高気圧性循環偏差。アリューシャン近海を中心に北日本にかけて低気圧性循環偏差。

500hPa高度

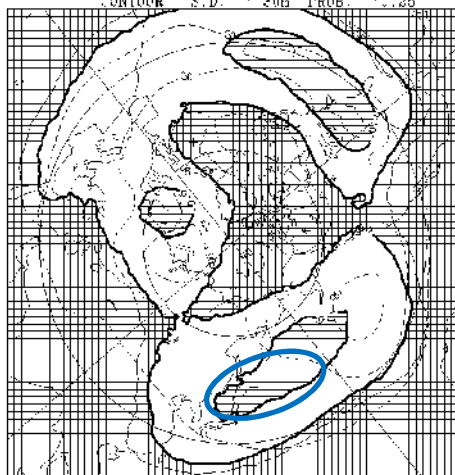


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.



CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25



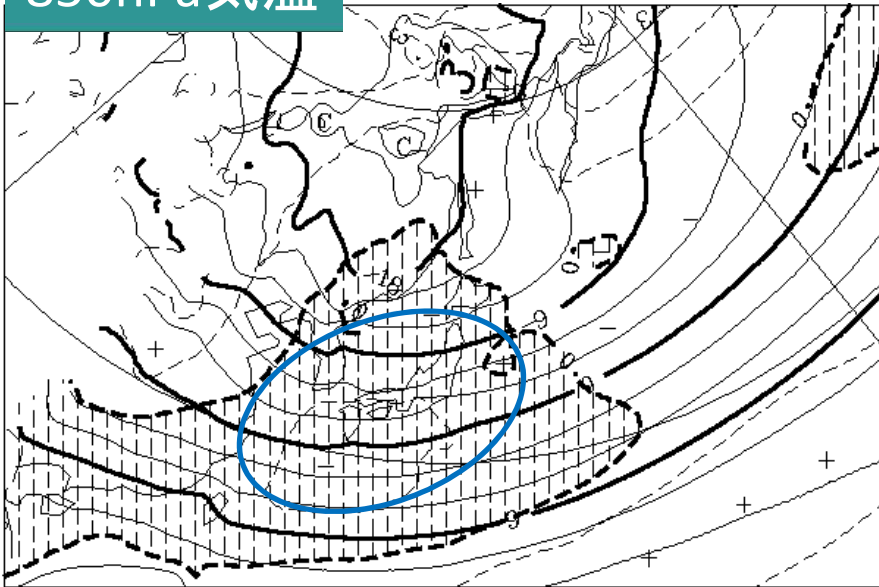
CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

バイカル湖とアラスカから北極付近にリッジがあって、正偏差域が広がる。一方、日本付近からアラスカの南にかけて負偏差。

正のユーラシアパターンが予測され、日本を含む東アジアに寒気が流入しやすいパターンとなっている。

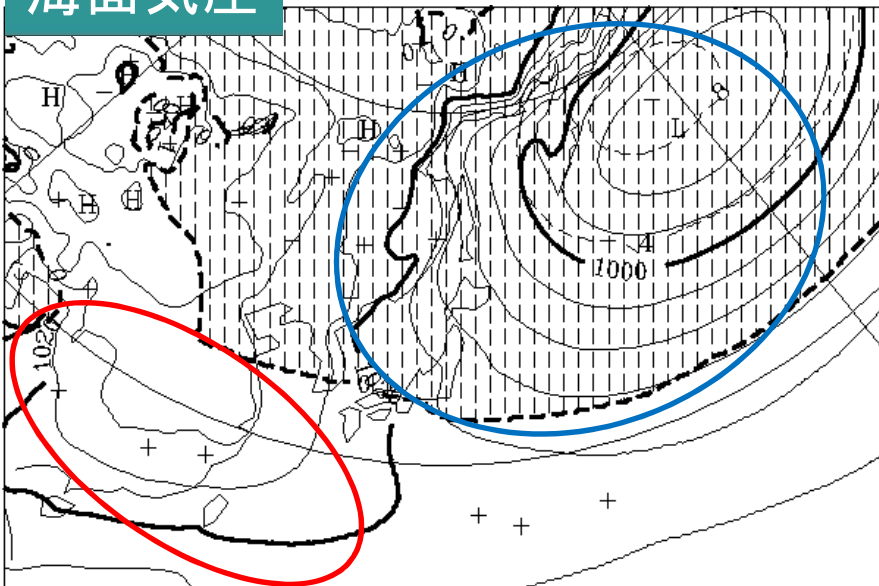
東日本から日本の東にかけて、負の高偏差確率50%以上の領域に覆われている。

850hPa気温



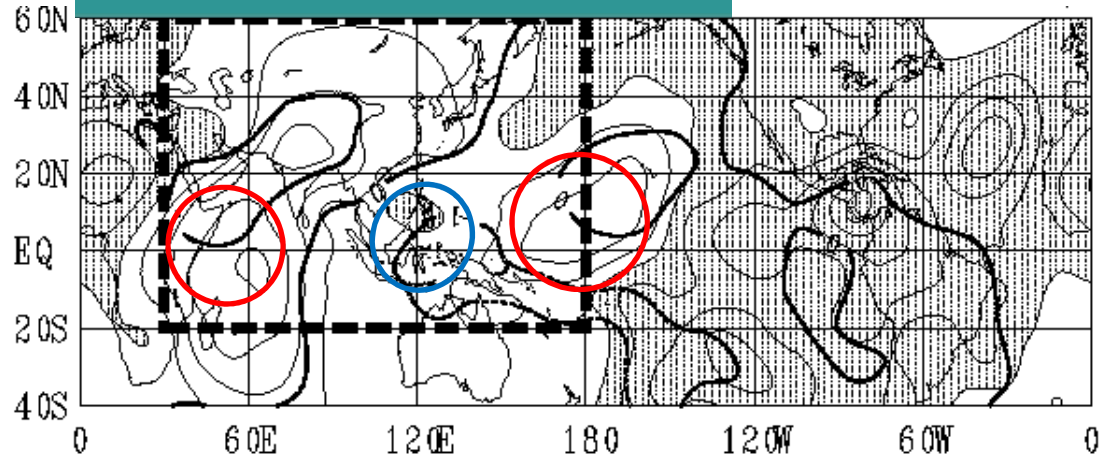
日本付近は負偏差。

海面気圧



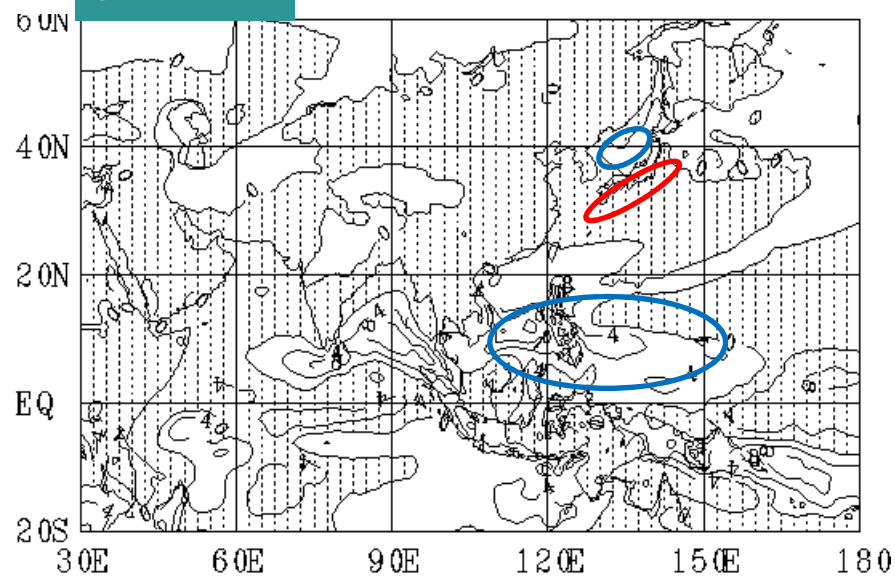
カムチャツカの東を中心に平年より低い一方、大陸から東シナ海付近にかけて、平年より高く、日本付近では冬型の気圧配置が強まりやすい。

200hPa速度ポテンシャル



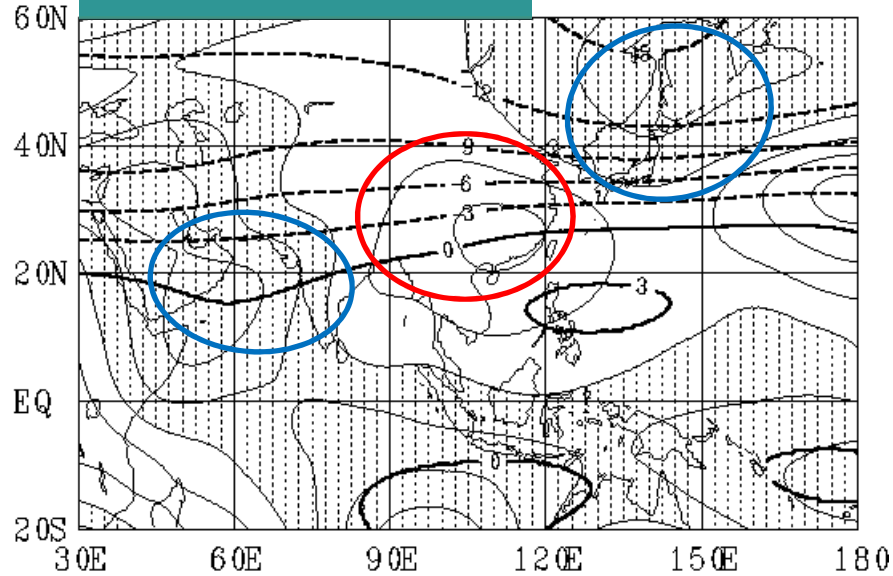
フィリピン付近を中心に上層
発散偏差。
インド洋西部付近と太平洋中
部で上層収束偏差。

降水量



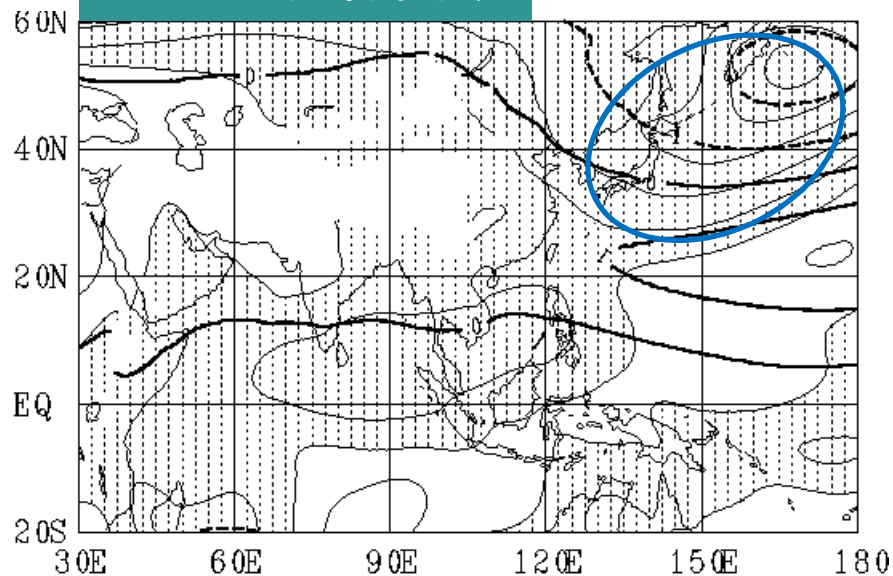
フィリピン付近から東方海上に
かけて多雨偏差。
日本付近では、北・東日本日本
海側では多雨偏差で東・西日
本太平洋側では少雨偏差。

200hPa流線関数



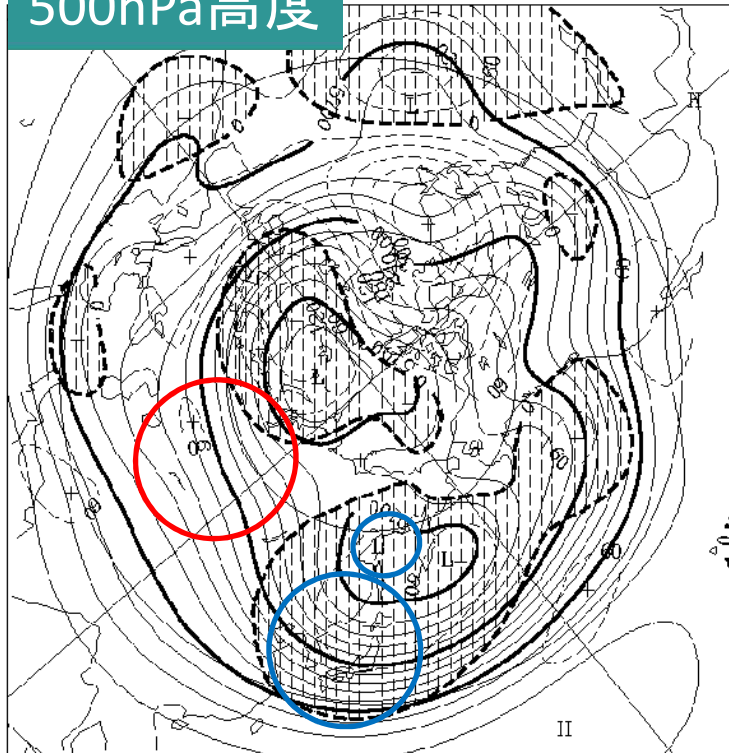
アラビア海付近に低気圧性循環偏差。華南付近には高気圧性循環偏差で、その東側の日本付近は低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本付近は低気圧性循環偏差。

500hPa高度

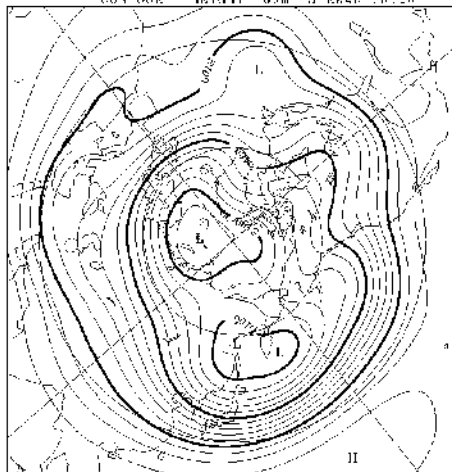


500hPa SPREAD AND HEIGHT

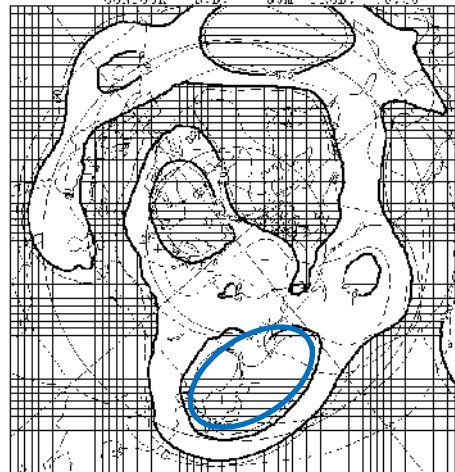
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



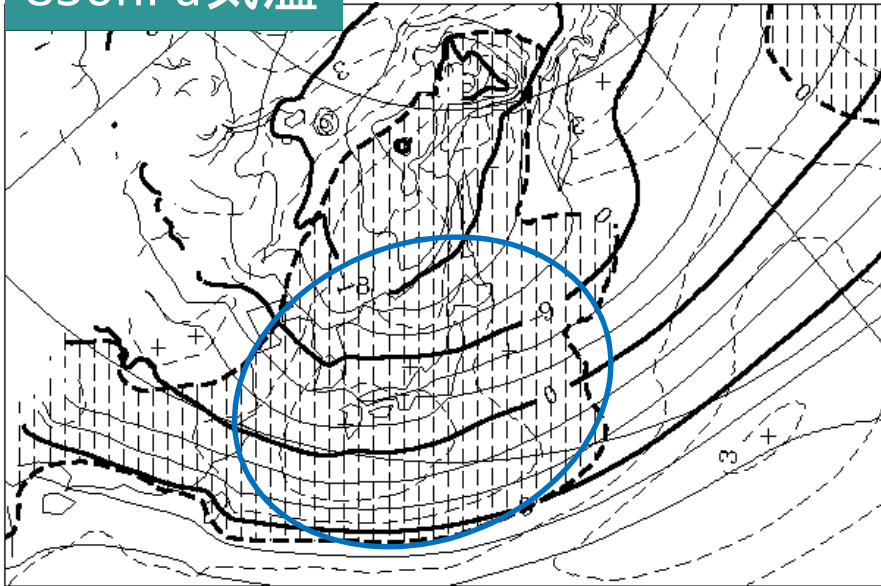
II



バイカル湖の西にリッジ。一方、極渦の一部がオホーツク海付近に予測されており、日本付近は負偏差。

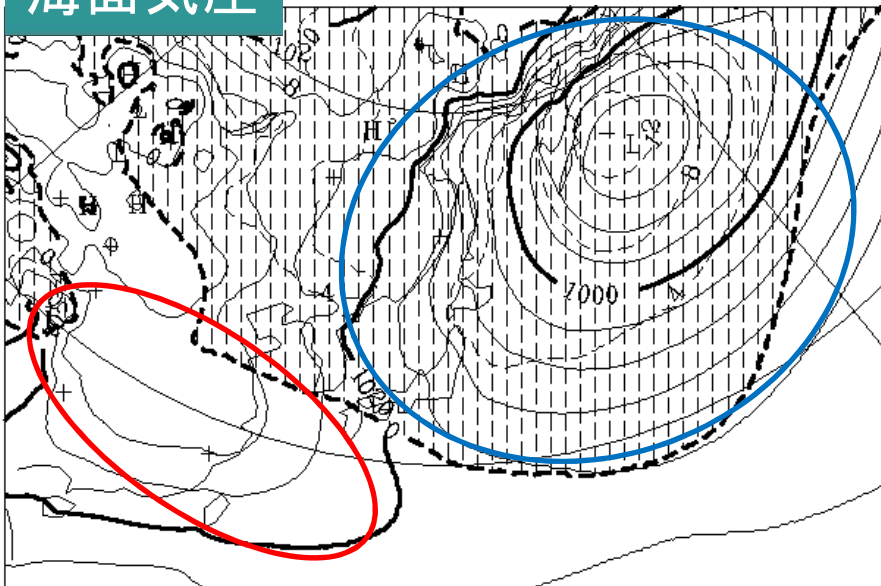
北日本から西日本まで負の高偏差確率50%以上の領域に覆われている。

850hPa気温



日本付近は負偏差。

海面気圧



カムチャツカの東を中心に平年より低い一方、大陸から東シナ海付近にかけて、平年より高く、日本付近では冬型の気圧配置が強まりやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすく、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まりやすく、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

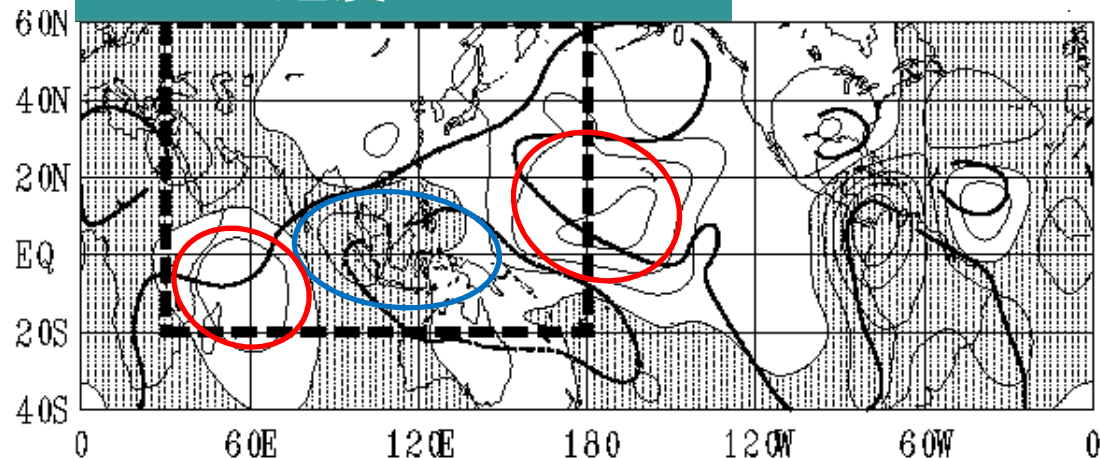
<気温>

- ・ 寒気の影響を受けやすいため、全国的に低温。

<天候>

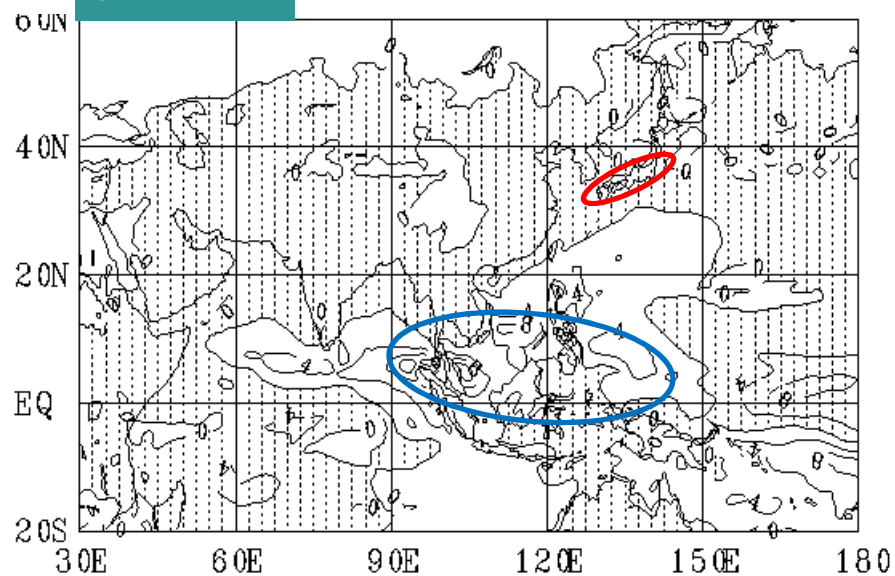
- ・ 冬型の気圧配置が強まりやすいほか、低気圧の影響もあり、北日本日本海側では多雨傾向・寡照傾向で、東日本日本海側では、寒気の影響もあり、多雨・寡照。
- ・ 西日本日本海側では、低気圧の影響を受けにくく、やや少雨・やや多照。
- ・ 北日本太平洋側では、並雨、並照。
- ・ 東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいため、少雨・多照。
- ・ 沖縄・奄美では、低気圧の影響をやや受けにくいいため、やや少雨、寒気の影響を受けやすいため、やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



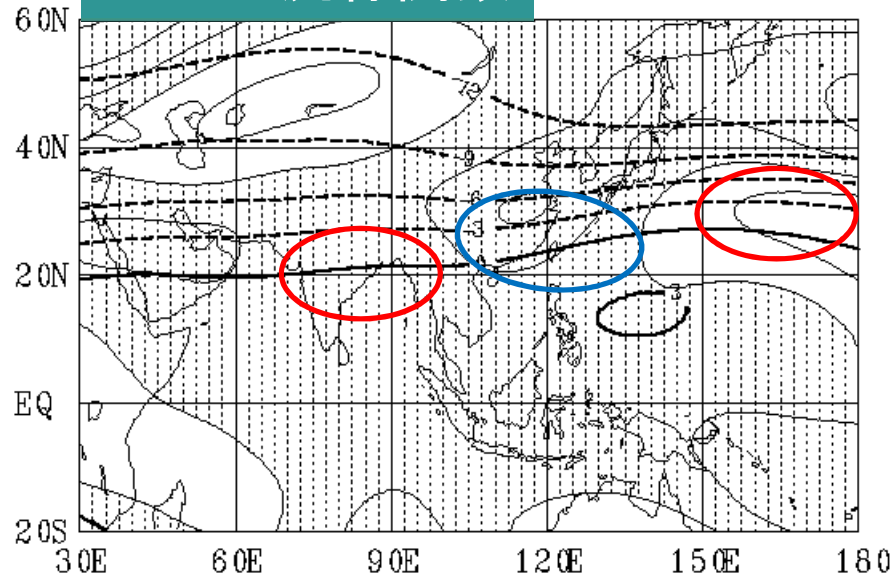
インド洋西部で上層発散偏差、太平洋中部で上層収束偏差。インドネシア付近で上層発散偏差。

降水量



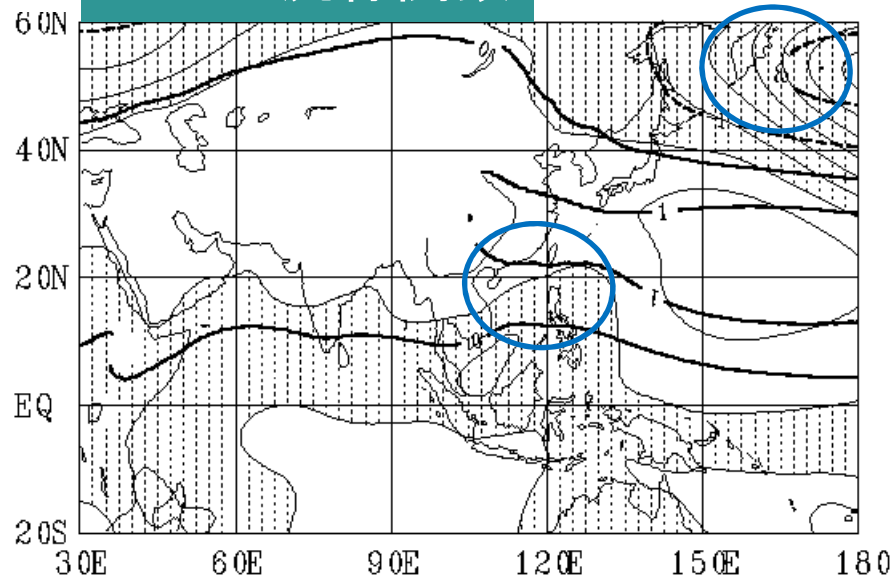
インドネシア付近を中心に多雨偏差。日本付近では、東日本太平洋側と西日本を中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



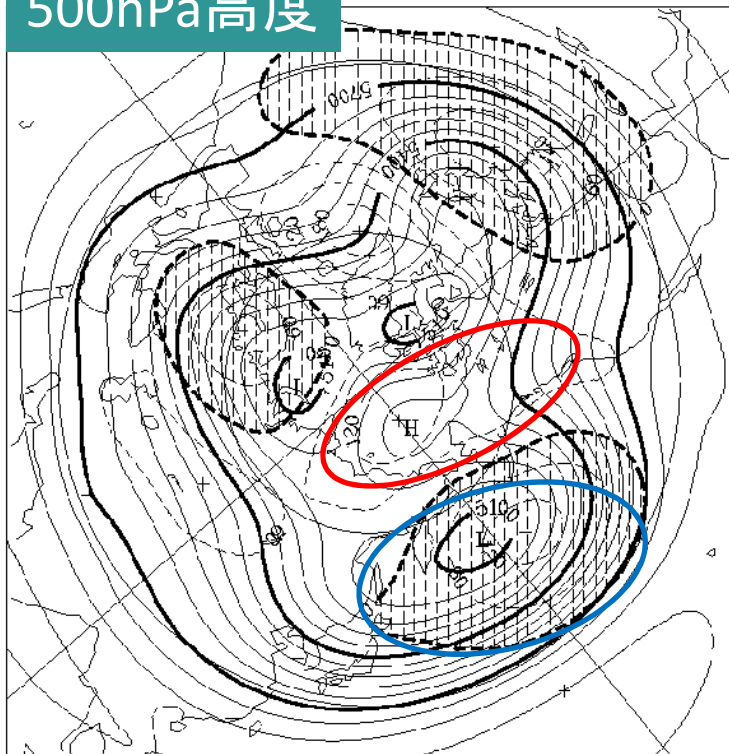
インド付近には高気圧性循環偏差、華中付近に低気圧性循環偏差、その東側の日本の東では高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海付近に低気圧性循環偏差、アリューシャン近海を中心に低気圧性循環偏差。

500hPa高度



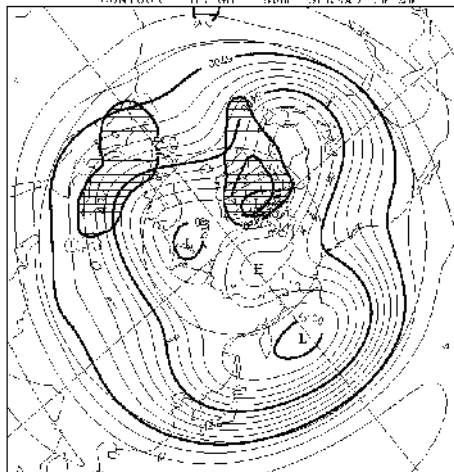
極渦の一部がカムチャツカの東に進んで、負偏差域も中心が日本の東海上へ移る。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

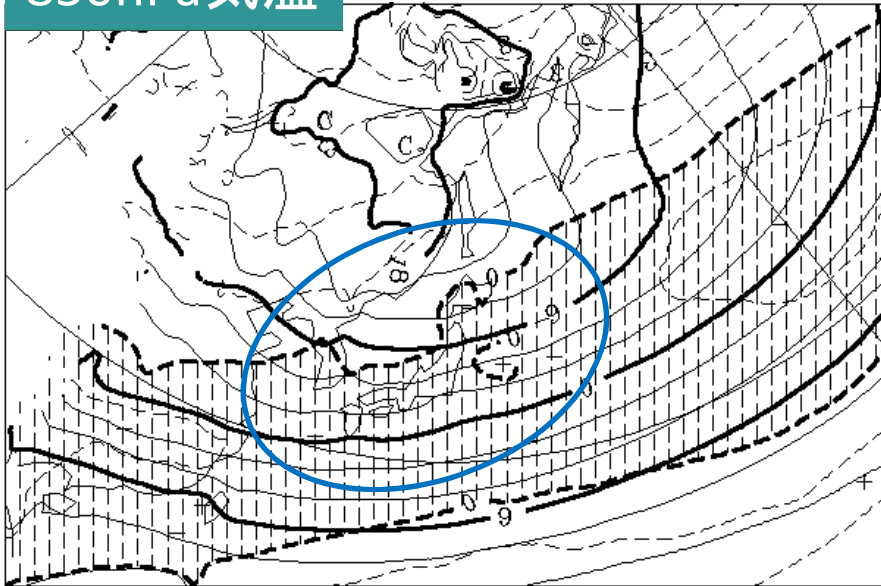
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 200 0.25

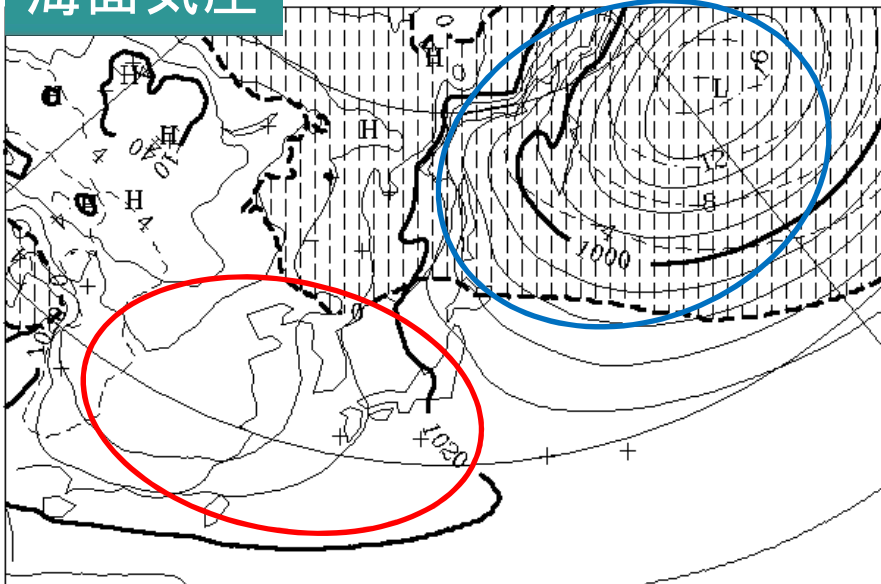


850hPa気温



日本付近は、沖縄・奄美付近を中心に負偏差。大陸からの高気圧に伴う下層寒気の影響。

海面気圧



アリューシャン低気圧が強く、北日本を中心に冬型の気圧配置が残る。

日本付近は正偏差で、冬型の気圧配置が緩み、大陸からの高気圧が移動性となり、西日本と沖縄・奄美付近を覆いやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

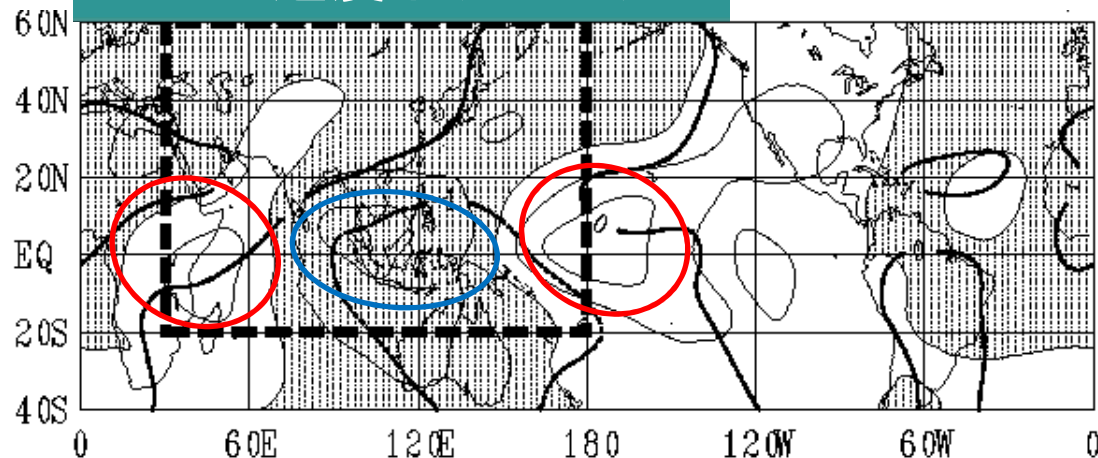
<気温>

- ・全国的に並温。

<天候>

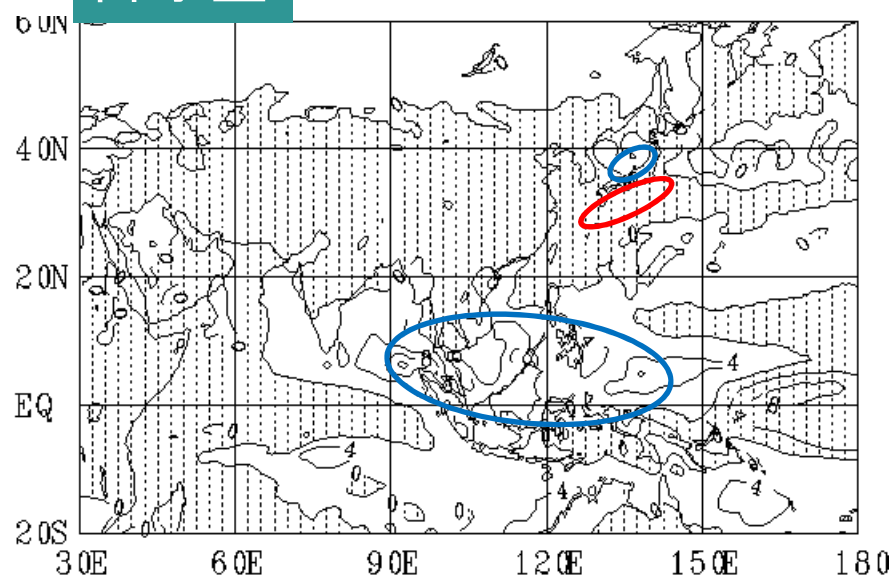
- ・冬型の気圧配置や寒気の影響をやや受けやすい北日本日本海側では、やや多雨、やや寡照、北日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくく、やや少雨・やや多照。
- ・東日本日本海側では、並雨・並照。
- ・高気圧に覆われやすいため、東日本太平洋側と西日本では、少雨傾向・多照傾向。
- ・沖縄・奄美では、高気圧に覆われる時期もあるが、寒気が残る可能性があり、やや少雨・やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



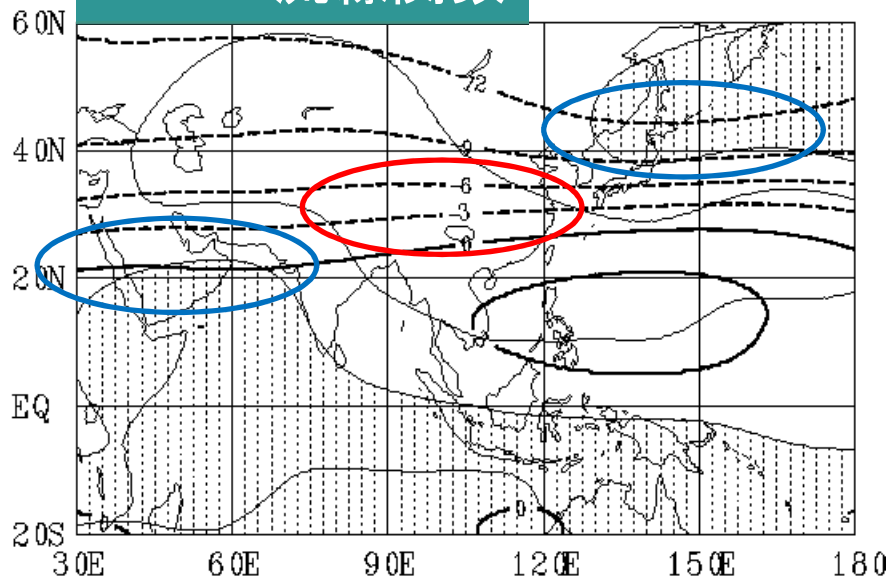
インド洋西部で収束偏差、太平洋中部で上層収束偏差。
インドネシア付近で上層発散偏差。

降水量



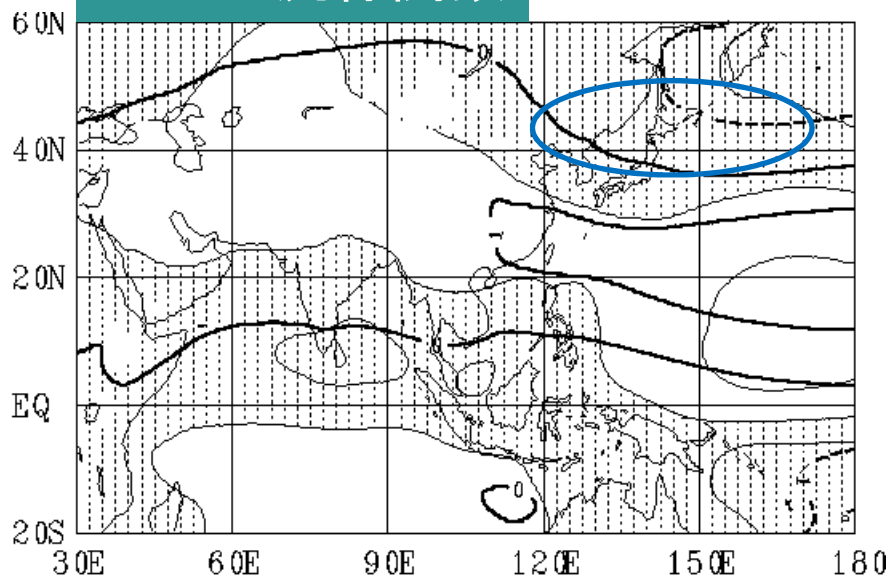
インドネシア付近を中心に多雨偏差。日本付近では、東日本日本海側では多雨偏差で太平洋側では少雨偏差。

200hPa流線関数



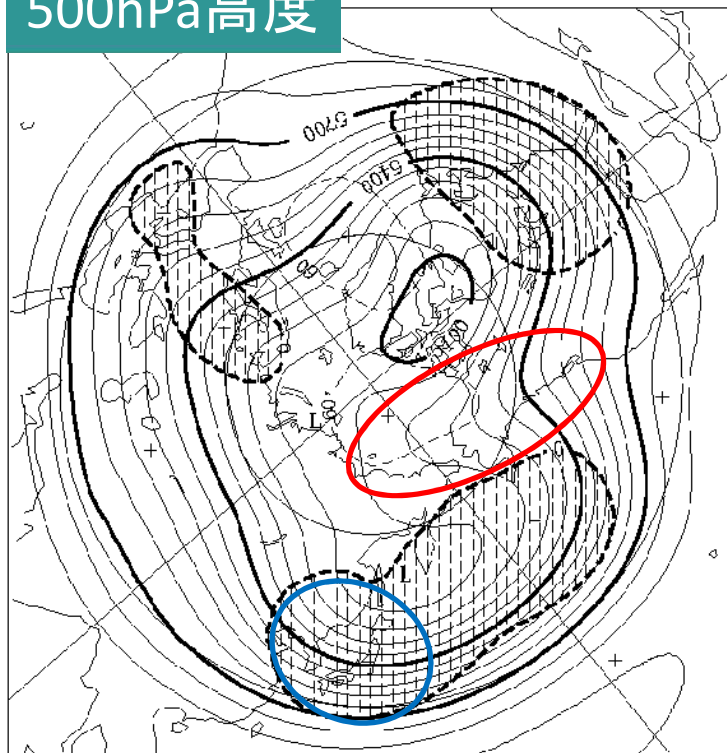
インド洋西部で低気圧性循環偏差で、中国大陸南部で高気圧性循環偏差。日本付近では、北日本を中心に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本付近では、低気圧性循環偏差。

500hPa高度

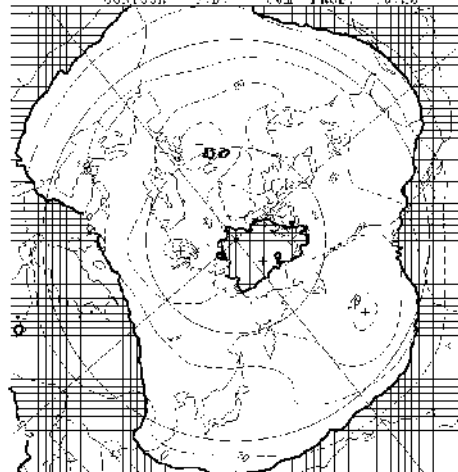
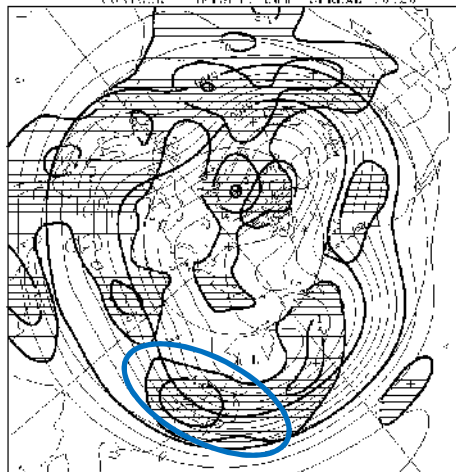


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

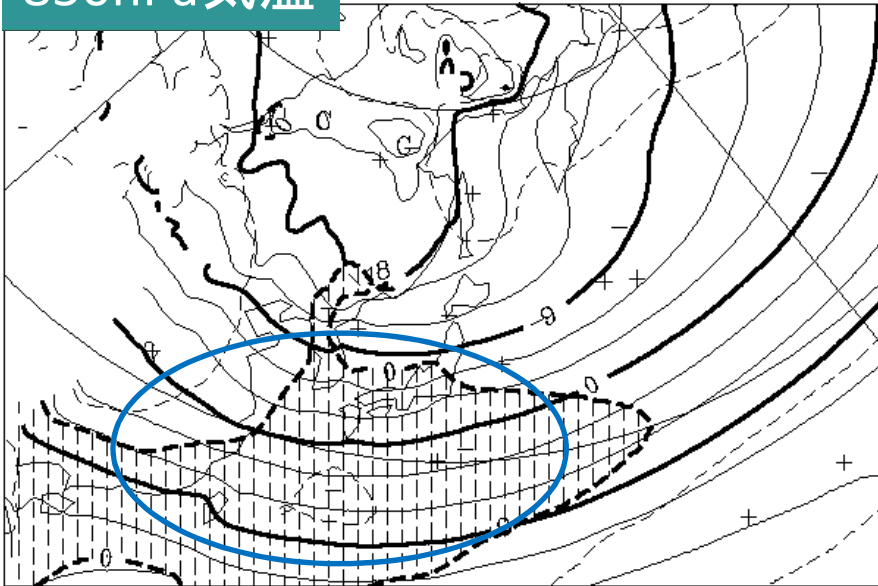
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



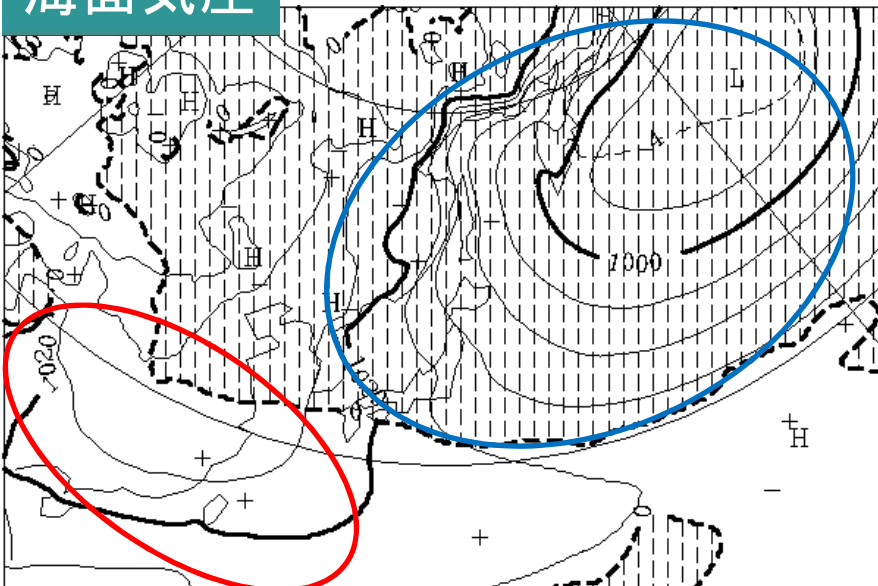
亜熱帯ジェット気流の蛇行に対応して日本付近では負偏差。
北極からアラスカ付近でリッジの一方、オホーツク海付近に極渦の一部が見られる。ただし、極渦の周囲でスプレッドが大きく、その動向には不確実性がある。
日本付近の負偏差は、熱帯の対流活動に伴う亜熱帯ジェット気流の蛇行の影響があるみられ、これをもとに組み立てる。

850hPa気温



日本付近は東日本から沖縄・奄美にかけて負偏差で、下層寒気が入りやすい。

海面気圧



カムチャツカの東を中心に平年より低い一方、大陸から東シナ海付近にかけて、平年より高く、日本付近では冬型の気圧配置が強まる時期がある。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

・冬型の気圧配置が強まり、寒気の影響を受けやすい時期があり、東・西日本や沖縄・奄美で低温傾向。北日本では、ほぼ平年並。

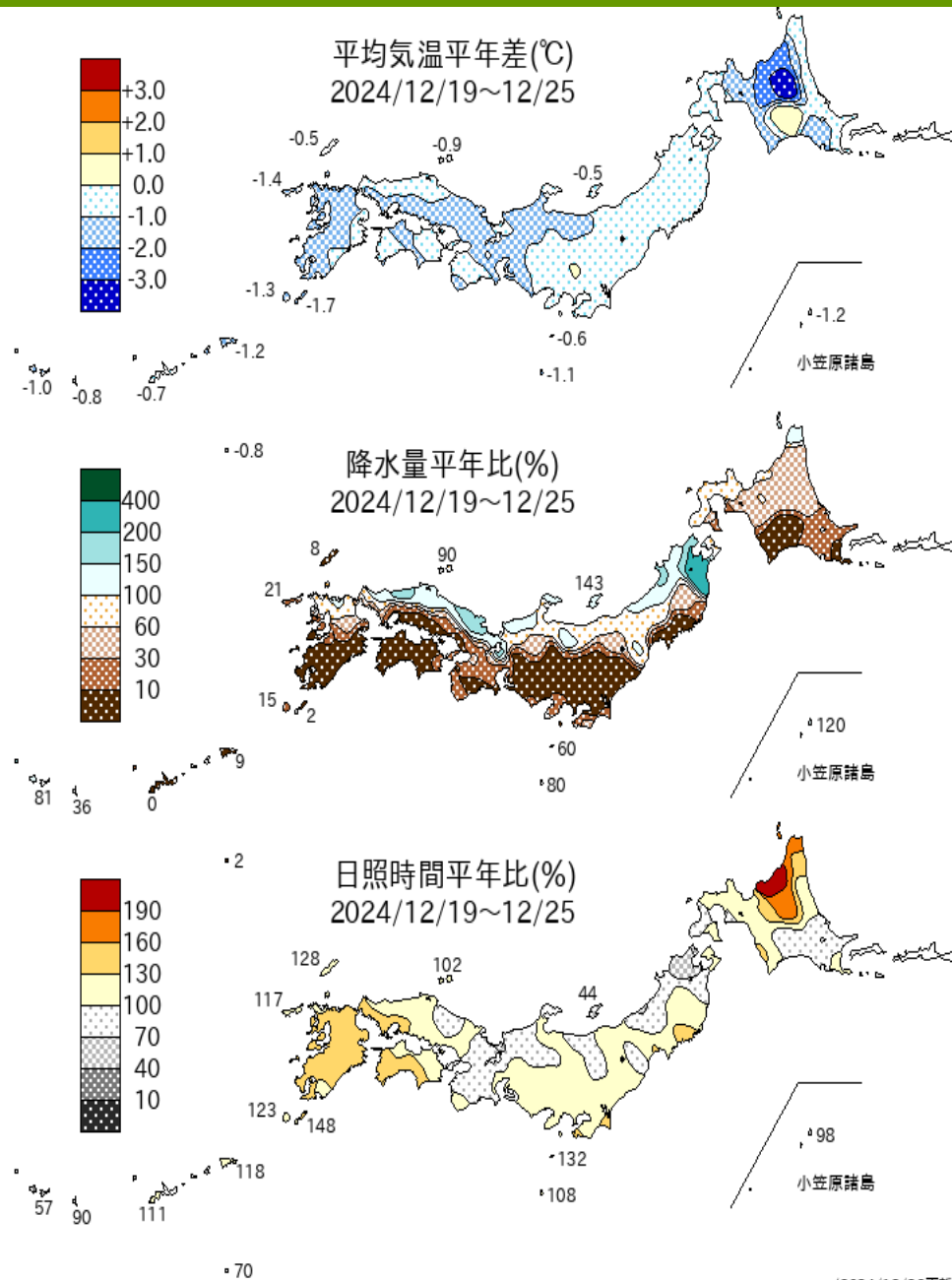
<天候>

・冬型の気圧配置が強まる時期があるほか、日本海側を中心に低気圧の影響を受ける時期があるため、北・東日本日本海側では、やや多雨・やや寡照。北日本太平洋側では並雨、やや多照。

・低気圧の影響をやや受けにくいいため、西日本日本海側と東・西日本太平洋側では、やや少雨・やや多照。

・沖縄・奄美では、低気圧の影響をやや受けにくいいため、やや少雨だが、寒気の影響を受ける時期もあり、やや寡照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(12月19日~25日)は、日本付近は冬型の気圧配置が続きやすかったことから、日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。23日頃は冬型の気圧配置が強まり、北日本日本海側で記録的な降雪となりました。

一方、東・西日本太平洋側では晴れの日が多くなりました。北日本日本海側では、低気圧の影響を受けにくかったため、晴れの日が多くなった地域がありました。また、沖縄・奄美では、大陸からの高気圧が張り出した日もあり、この時期としては晴れの日が多くなりました。

気温は、全国的に寒気の影響を受けやすかったため、平年を下回りました。